

タイの空港で

● 放 眼 日 中 ●



8月終わりの朝、タイの首都バンコックのスワンブーン空港で出国手続きをした。この時期、いつものことではあるが、夏休み休暇を終えた外国人が多く押し寄せ、空港のイミグレーションはいつになく混んでいた。特に、子供を連れた家族連れは「タイ人」と「外国人」が別々に並ぶようになっていて、この日はその表示も無視しなければならぬほどに人がおり、空港の指示に従う形でタイ人も外国人も関係ない長い列ができていた。

もしこれが日本なら、誰か一人ぐらい文句を言いそうだが、怒った方が負け、と心得ているタイ人はゆったりと涼しい顔をしている。大いに文句を言いそうな中国人は、実は「お上」には弱いという特徴を持つており、不満でも黙っている。筆者のすぐ前には中国人、その前はタイ人、そして韓国人がそれぞれ家族で並んでいた。クーラーが後ろからガンガン冷やしてくるなか、中国人家族は横一列になり、幅が大きく広がった。一般的に、きちんと列に並びたがらないのは中国人、一方、韓国人は逆に背筋を伸ばして乱れずに立っている。これもいかにも韓国らしく、微笑ましい。

タイ人はクーラー慣れはしているが、とにかく前へ進む足取りが重い。「タイ人は歩きたがらない」という傾向がこんなところまで出ている。ちなみにバンコックのタイの友人の中には「100センチ以上は絶対に歩かない」と言い、目と鼻の先にあるスパーまで毎回バイクタクシーに乗って行く人までいる。その前に並ぶ韓国人とは、しばしば距離が空く。後ろのドイツ人はその様子を見て、「中国人がいつタイ人の前に割り込むか知れやしない」と心配顔。

そして我々の列が隣の列より少し進みが速いと分かった時、中国人家族のお父さんが隣の列にいた中国の若者3人に「こつちが速いぞ、早く俺の前に入れ」と中国語で呼び掛けた。中国語が分からない他国人でも、その大声が何を意味しているかすぐ分かる。さてどうするのか、皆の視線が若者に集まった。すると若者の一人が「ちゃんと並んで順番を守ろうよ」と言うではないか。

だが今度は、他の親族も「こつちに並びなさい」と次々に声を掛け始めた。この光景には呆れるばかりだったが、いかにも中国人の行動様式が現れていた。「全てにおいて身内優先」であり、「身内の前で自分だけが良い思いするのは許されない行為」なのではないだろうか。これに対する若者の拒絶には、このような行為に対する反発や羞恥心が存在しているということだろう。

中国人観光客のマナーについては色々意見があり、確かにいかなるものかというような行動が見られるのも事実である。だが、どうして彼らはそのような行動を取るのか、そして、最近の若い世代は確実に変わってきている、ということも頭に入る必要があるだろう。

日本より国際色豊かなタイの空港。そこに立つて、各国の人々の行動を眺めてみるというのも一興ではないだろうか。混んでいる時、イライラして心を乱すよりははるかに有意義な時間の過ごし方に思えた。



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。